

国立研究
開発法人

海上技術安全研究所 国際会議報告

会 議：国際海事機関（IMO）内航旅客船の安全性強化のための会議

開催場所：フィリピン国際会議場（PICC）、マニラ、フィリピン

会議期間：2015年4月24日

参加国：国および地域：13、政府間機構：1、非政府機構：4、大学（世界海事大学他）：2

海技研からの出席者：

小川剛孝：構造安全評価系基準開発グループ長（国際連携センター併任）

概要：重大な海難事故が、非国際航路において多く発生していることを認識する IMO は、これらの現状認識を深めたうえで内航船の安全基準策定を技術的にサポートするためのガイドラインの開発を目的とした当該会議を開催した。これに係る IMO や日本他の調査研究の成果の発表とガイドライン案について審議し、以下を合意した。

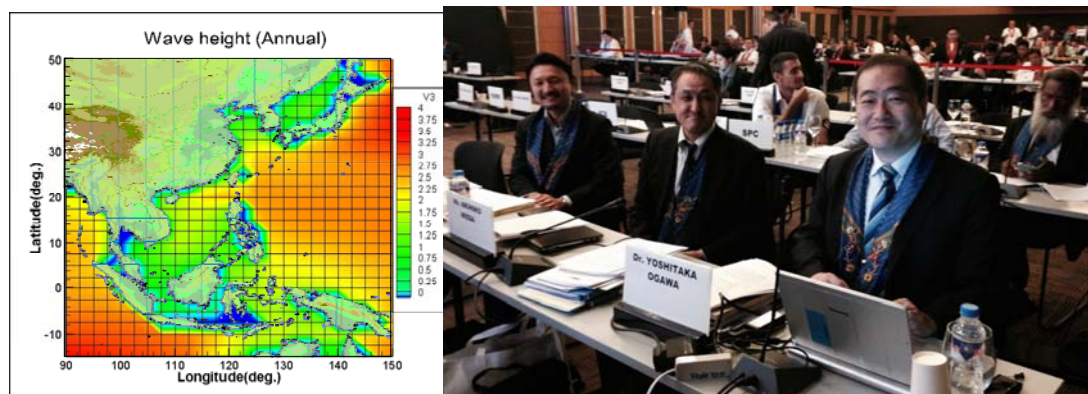
- 非国際航路における一層の海難事故防止に尽力し安全性向上及び環境保全を図ること
- 内航船の基準適合を確認するために IMO が開発したガイドライン（チェックリスト）
- 日本が東南アジア諸国連合（ASEAN）との共同事業の成果物である航行区域設定及びこれに整合した基準開発のためのガイドラインの開発についての謝辞と今後の IMO によるガイドラインとの統合の検討

主な貢献

小川は、国土交通省海事局からの委託研究において、東南アジア周辺海域の海象特性の把握とこれに基づく航行区域及び安全基準の設定法を研究した。今回の会議では、日本の取り組みの一環として実施した当該研究成果に基づき、日本が開発した内航旅客船安全ガイドラインについて講演するとともに、IMO 事務局及び各国代表団と意見交換を行った。

今後の予定

日本は引き続き ASEAN と共同事業を実施し、IMO も引き続きガイドラインの高度化や日本が開発したガイドラインとの統合を検討する。



左：海技研の調査研究に基づく東南アジア周辺海域における平均波高分布

右：会議場における日本代表団（右端が小川基準開発グループ長）